

第6学年1組 体育科学習指導案

指導者 体育専科

- 1 日時 令和5年10月4日(水) 5校時(13:45~14:30)
- 2 場所 体育館
- 3 単元名 ONE 心を一つにアーティスティックマット(器械運動領域 マット運動)
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 教材の特性と児童の実態

教材の特性	<p>マット運動は、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらの技を繰り返したり組み合わせたりして、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動である。自分の能力に合わせて課題を設定したり、課題の解決のために練習場所を選択したり練習方法を工夫したりすることができる。</p> <p>しかし、回転したり逆さになったりする動きは非日常的な動きであり、「できる」・「できない」がはっきりするため、「できない」児童は苦手意識を持ちやすい運動である。</p> <p>本単元では「アーティスティックマット」を取り入れ、できるようになった技を音楽に合わせてグループで揃えたり、タイミングをずらしたりしながら空間をうまく使って一つの作品を作り上げることに面白さや楽しさを見出すことができる。苦手の児童も複数で演技することにより安心感を得ることができ、基本の技でも見栄えがするため、達成感を得ることができる教材である。</p>	児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前の運動有能感アンケート「体育の授業が好きですか。」に「よくあてはまる」と答えた児童が62%いるのに対し、「運動能力がすぐれていると思いますか」に「よくあてはまる」と答えた児童は9%であった。昨年度のマット運動では、基本の技に取り組んだが、発展技ができたり、技を美しく行ったりできる児童は少ない。また、腕支持の力が弱く、高学年になり、体重が増加したことにより、自分の体重を支えられない児童も多い。(知識及び技能) ○ 昨年度の跳び箱運動やハードル走の単元を通して、友達の動きを見てアドバイスする経験を重ねてきた。しかし、グループで課題を解決したり、一つの作品を作り上げたりする協働的な学習ができていないのが現状である。(思考力、判断力、表現力等) ○ 体育の授業を楽しみにしており、記録を伸ばしたり、よりよくできるようになるために意欲的に練習に取り組んだりする児童が多い。しかし、運動を苦手とする児童は多く、ことに満足し、できないことに新たに挑戦しようとする意欲が少ない。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---	-------	---

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て	
視点1：個別最適な学び	視点2：協働的な学び
<ul style="list-style-type: none"> ① 単元前半に自己の課題に挑戦する時間、後半にできるようになった技を生かしてグループで演技する場を設けることで、個の学びを保証するとともに、技能の向上や自己の成長を成果として実感できるようにする。 ② 場や教具を工夫し、練習の場を選択させることで、自己の課題解決に向けて誰もが意欲的に練習に取り組むことができるようにする。 ③ ICT端末を使用することで、自己やグループの課題を発見したり、変容を実感させたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① グループ演技を取り入れることで、意見を出し合ったり教え合ったりしながら課題解決を目指すことができるようにする。 ② 「する・みる・支える・知る」の様々な立場から運動に関わらせることで、協力して課題解決ができるようにする。 ③ ルーブリック評価を用いて相互評価をすることで、自分だけでは気付くことのできなかったグループの課題に気付いたり、達成基準を明確にして練習に取り組んだりすることができるようにする。

ウ 単元における指導と評価の計画

時	1	2	3	4
学習の流れ	「アーティスティックマット」について知ろう。 ○ オリエンテーション ○ 動画を見る。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ 振り返り	自分の課題に適した場所や方法を選んで練習しよう。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ 基本の技練習 ○ 振り返り	基本の技に挑戦しよう。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ 基本の技練習 ○ 動画撮影 ○ 振り返り	基本の技に挑戦しよう。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ 発展技の練習 ○ 動画撮影 ○ 振り返り
	主な評価	知 ア(観察・学習カード)		
	思			
	態	エ(観察)	イ(観察)	ア(観察)

(2) 単元構想

ア 単元目標

- マット運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。(知識及び技能)
- 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- マット運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年 観点	低学年 〈(内容)〉	中学年 〈(内容)〉	高学年 〈(内容)〉
知識・技能	○ マットを使った運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、マットに背中や腹などをつけているような方向に転がったり手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。	○ マット運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技をすることができる。 ○ 基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。	○ マット運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。 ○ 選んだ技を自己やグループで繰り返したり、組み合わせたりすることができる。
思考・判断・表現	○ マットを用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題の解決の仕方や、技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 運動遊びに進んで取り組むことができる。 ○ 順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をすることができる。 ○ 場や器械・器具の安全に気を付けることができる。	○ 運動に進んで取り組むことができる。 ○ きまりを守り、誰とでも仲よく運動をすることができる。 ○ 友達の考えを認めることができる。 ○ 場や器械・器具の安全に気を付けることができる。	○ 運動に積極的に取り組むことができる。 ○ 約束を守り助け合って運動をすることができる。 ○ 仲間の考えや取組を認めることができる。 ○ 場や器械・器具の安全に気を配ることができる。

ウ 本単元を通して育てたい児童像(ゴールイメージ)及び教師の願い

ともに学び、高め合う泉川っ子
グループ活動を通して、自己やグループの課題を発見し、協力して解決したり、作品を作り上げたりする活動を通して、できる喜びや共に活動する楽しさを実感させたい。

イ 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア マット運動の行い方を理解している。 イ 回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。 ウ 選んだ技を自己やグループで繰り返したり、組み合わせたりすることができる。	ア 自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫している。 イ 技の組み合わせ方を工夫している。 ウ 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	ア マット運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 約束を守り助け合って運動をしようとしている。 ウ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 エ 場や器械・器具の安全に気を配っている。

5	6	7	8(本時)	9
発展技に挑戦しよう。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ 課題別練習 ○ 動画撮影 ○ 振り返り	グループで発表の構成を考えよう。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ 構成作り ○ グループ練習 ○ 振り返り	アーティスティックマットの練習をしよう。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ グループ練習 ○ グループで見せ合い ○ 相互評価 ○ 振り返り	グループで課題を明確にし、解決に向けて協力して練習しよう。 ○ 準備運動 ○ 感覚づくり運動 ○ グループ練習 ○ グループで見せ合い ○ 相互評価 ○ 振り返り	アーティスティックマットの発表会をしよう。 ○ 準備運動 ○ グループ練習 ○ 発表 ○ 評価 ○ 振り返り
イ(観察・ICT)			ウ(観察・ICT)	イ(観察・ICT)
ア(観察)	イ(観察・学習カード)	ウ(観察・学習カード)	ウ(観察・学習カード)	
		ウ(観察・学習カード)		

5 本時の指導 (8/9)

(1) 目標

- 選んだ技をグループで繰り返したり、組み合わせたりし、より美しく演技をすることができるようにする。(知識及び技能)
- 友達やグループの課題を見付け、その解決に向けて自分の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 準備物

- 教師 マット、プロジェクター、タブレット、タブレットスタンド、ホワイトボード
- 児童 体育カード、筆箱、タブレット

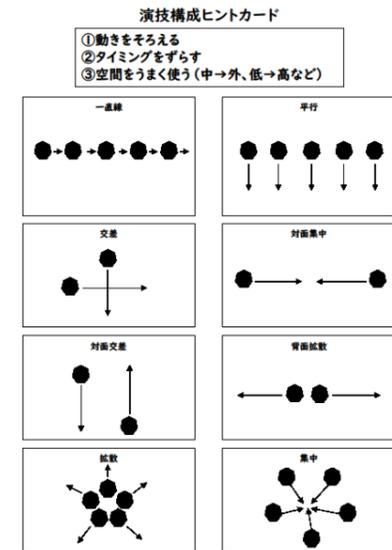
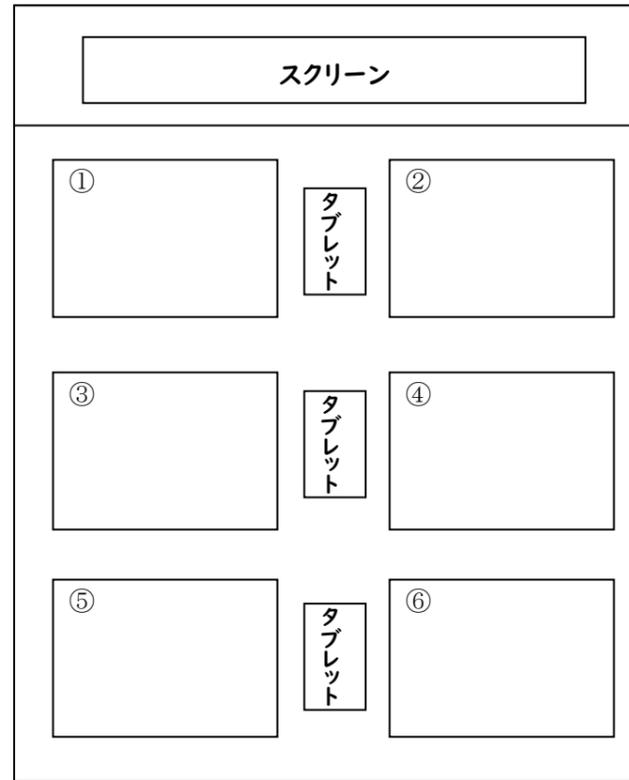
(3) 展開

学習活動	時間	○ 教師の働き掛け	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な児童・意欲的でない児童への支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準 (方法) 【観点】
1 準備運動・感覚づくり運動を行う。	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく使う部位を意識させる声かけをしながら体操の師範を行う。 ○ 動きの大事なポイントとなる声掛けを行う。 	<input type="checkbox"/> 音楽に合わせて使う部位を意識しながら、楽しい雰囲気体操・ストレッチを行うことで、意欲的に学習に取り組めるようにする。 <input type="checkbox"/> 様々な感覚づくり運動を行うことで、主運動につながる感覚を身に付けさせ、スムーズに技につなげられるようにする。
2 課題を確認する。	3	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループで課題を明確にし、解決に向けて協力して練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のルーブリック評価を提示し、グループで課題を明確にして練習に取り組ませる。 ○ 完成度を高めるための具体的なポイントを提示する。 	<input type="checkbox"/> 前時のルーブリック評価を振り返らせることで、グループの課題を明確にして練習することができるようにする。
3 アーティスティック演技の練習をする。(グループ)	20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動きを揃えるポイントや技がよりよくなるポイントを伝える。 ○ よくなったことを具体的に称賛する。 ○ 曲をループ再生させ、いつでも通し練習ができるようにする。 ○ 一度グループで動画撮影をし、ルーブリック評価を用いて自分たちのグループの課題を確認させる。 	<input type="checkbox"/> 遅延再生機能を使うことで、即時的に振り返りができるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> タイミングが合わない児童には、カウントを取りながら練習するようアドバイスする。 <input checked="" type="checkbox"/> 選んだ技をグループで繰り返したり、組み合わせたりし、より美しく演技をすることができる。(観察・ICT) 【知・技】
4 ペアグループで発表し、相互評価をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備ができたことを確認して音楽を流す。 ○ ルーブリック評価表を提示し、評価する項目を確認させる。 ○ 意見の伝え方を確認する。 ○ 評価してもらったルーブリックをもとに、次時の課題も設定させる。 	<input type="checkbox"/> ルーブリック評価表を使用することで評価の観点を明確にする。 <input type="checkbox"/> 発表する前に自分たちの課題に対する改善点やアピールポイントを伝えることで、見るポイントを明確にする。 <input type="checkbox"/> 相手グループの課題解決につながるよう、よかったことや課題を具体的に伝えられるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> 友達やグループの課題を見付け、その解決に向けて自分の考えたことを他者に伝えている。(観察・評価表) 【思・判・表】
5 学習を振り返る。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループでよくなったところや次時の課題について発表させる。 	<input type="checkbox"/> よくなったことだけでなく、課題も確認させることで、次時の発表につながるようにする。

(4) 研究の視点

- ① 単元前半に自己の課題に挑戦する時間、後半にできるようになった技を生かしてグループで演技する場を設けたことは、個の学びを保証するとともに、技能の向上や自己の成長を成果として実感することにつながったか。【個別最適な学び】
- ② アーティスティックマットとしてグループ演技を取り入れたことは、意見を出し合ったり教え合ったりしながら課題解決を目指す協働的な学びにつながったか。【協働的な学び】

(5) 場の設定や補助資料



アーティスティックマット演技構成カード

グループ名	グループのめあて
①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧